



今年最遠の満月を見よう

天空が広がるうぶやまの高原には。爽やかな薫風が吹いています。陽が長くなり、はやくも夏日や真夏の便りが伝えられています。
梅雨前で季節は初夏ですが、星空は南にはまだ春の星座があります。。

指針コラム (天体情報・見どころ)

5月の星空情報の第3弾は5月31日の今年最遠の満月とブルームーン
の天文現象です。(月に2回ある満月をブルームーンと呼ぶ)

2026年に最も地球に近い位置で起こる満月は12月24日で、この時の地球からの地心距離は約357000km、月の視直径は約32分29秒角です。5月31日の満月は、12月24日の満月と比べて視直径が12%小さいのです。数字で見ると、ずいぶん大きな違いに思えるでしょう。しかし、実際の夜空に月を二つ並べて比較することはできないため、夜空の月を眺めただけで大きさや明るさの違いに気づくのは難しいでしょう。

(次ページへ続く)

観察対象

2026年 満月の距離のちがい

イメージ図



2026年 最も近い満月 12月24日 10時28分
地心距離[※] 約 35万 7,000 km

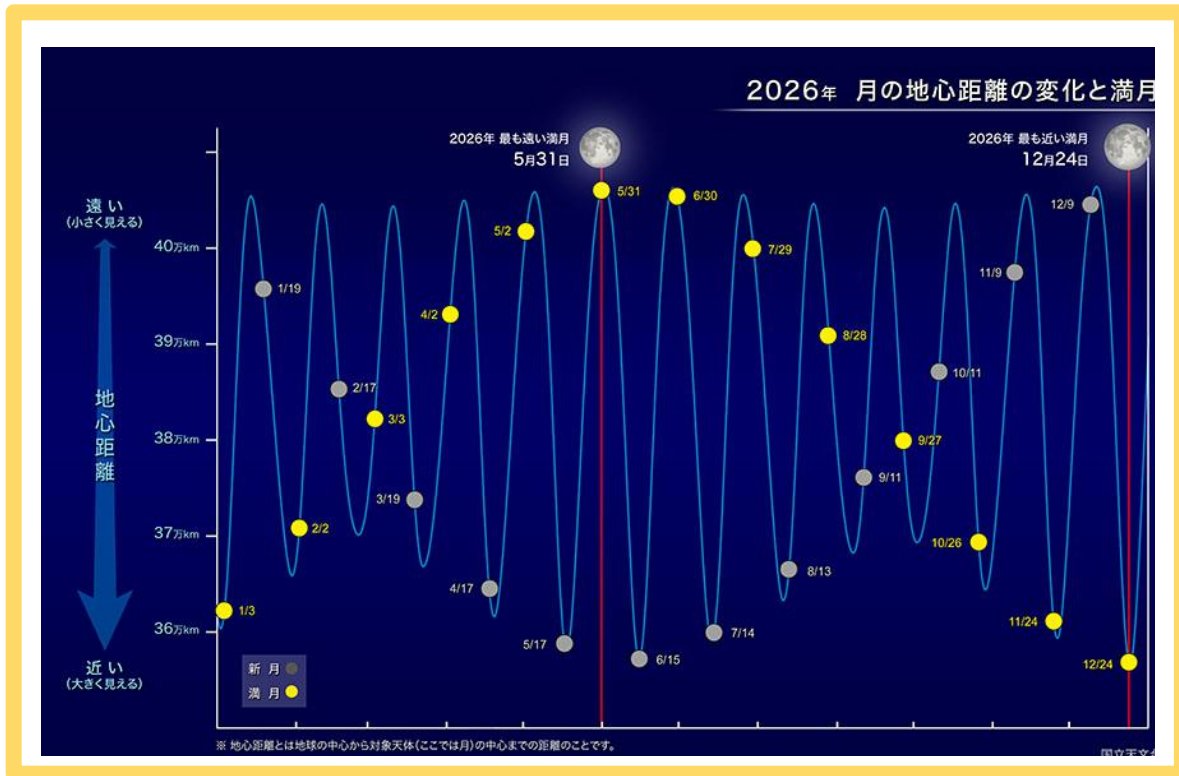


2026年 最も遠い満月 5月31日 17時45分
地心距離[※] 約 40万 6,000 km

※ 地心距離：地球の中心から天体(この場合は月)の中心までの距離

国立天文台

2026 満月の距離のちがい



2026 月の地心距離の変化と満月

地球の周りを公転する月の軌道は楕円形をしているため、地球と月との距離は常に一定ではありません。図は、月の地心距離が周期的に増減する様子を現しています。さらに、月の軌道も太陽や地球などの重力を受けて変形するなど、複雑な仕組みで動いているため、1公転の中で最近、最遠となるときの距離も一定ではなく変化しています。満月や新月となるタイミングを重ねると、図のように毎回異なる距離で起こっているみとがわかります。

5月は2日と31日に2回、満月があります。31日は、2026年中で地球から最も遠い位置で満月になります。

月は5月31日17時45分に満月(望)となり、翌日の6月1日13時33分に遠地点を通過します。31日の満月のときの地心距離は約406000km、月の視直径は約29分25秒角です。